

科目名	専門演習 I A	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	経営学だけでなく、形而上学、倫理学、法学、政治学、経済学も視野に入れた、手作りの問題を配布し、各班単位で報告を発表してもらいます。報告は、解説調ではなく、フロアとのディベートを重視します。対象者としては、民間への就職希望者だけでなく、大学院進学、法科大学進学、公務員試験、各種資格試験、企業、政治家等あらゆる分野にわたって、夢をもって努力する元気な人なら、過去の学業成績等にこだわらず、大歓迎します。そして、ゼミを大学生活の中心に位置づけ、コンパ、ゼミ旅行、司法見学などのゼミの活動・大学行事に積極的に参加する方も大歓迎です（ゼミ費として、年間3万から3万5千円程度に費用（毎月積立）がかかります）。
	到達目標	大学生活における3年次は、就職・公務員試験・大学院進学・各種資格試験など、学生みなさんそれぞれの人生を目標を達成するための、基礎固めを行う大切な時期です。この時期の過ごし方が、あなたの一生を大きく作用するといっても言い過ぎではないでしょう。そこで、前期専門演習 I Aでは、社会人として恥ずかしくないマナーと必須の能力を身に付けることを目標とします。具体的には、各自今まで学び身につけた学問を基礎に、他説からの批判がなされるという緊張感の中で、事前に考えてきた自説を言葉に表現し、相手を納得させることができる能力を身につけること（端的にいえば、ディベートに耐え、法的思考力を身につけること）を目標とします。
授業計画	(1) オリエンテーション（ゼミ役職決定、グループ分け、研究発表の日程調整、自己紹介など） (2) グループ発表とディベート（ゼミ生の勉強量や活発な発言によって変化する） (3) // (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) // (13) // (14) // (15) //	
自学自習	事前学習	授業前の準備学習は、とても大切です。参考文献は最低読んで理解してください。学習時間の目安としては、多ければ多いほど良いのは当然ですが、標準的な学生で、最低毎週4・5時間程度の予習を求めます。
	事後学習	授業に集中すれば復習はあまりいりませんが、各自ゼミにおいて興味をもった分野の研鑽に努めることを求めます。
使用教材・参考文献	【教】・【参】教科書は特に指定しませんが、配布問題ごとに参考文献を指定します。なお、事前に読んでおくことよい文献として、以下のものを挙げてあげておきます。①M. サンデル著（鬼澤忍訳）『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—』（早川ノンフィクション文庫、2011年）。②P.F. ドラッカー著（上田惇生訳）『ドラッカー名著集10 産業人の未来』（ダイヤモンド社、2008年）。	
成績評価方法と基準	平常点として、発表・グループ作業の成果等をみます。特に、授業中の発言（推定力、判断力、他人の話を正確に理解する能力の有無等）をみます。	
備考	専門演習 I B（平手）を引き続き必ず履修すること。	